

令和8年度

# 講評と対策

入学試験問題

四天王寺中学校

# 国語

## 問題内容

一『ぼっちのアリは死ぬ』古藤日子著  
ちくま新書(資料:朝日新聞)

二『夜の星を放つ』『星の随に』  
窪美澄著(文藝春秋)

三『読み終わらない本』  
若松英輔著(KADOKAWA)

## 配点

40点

40点

40点

## 出題の意図

労働アリは仲間や幼虫と共に暮らすことで安定した行動と寿命を保つ一方、孤立すると行動が乱れ、寿命が縮むという新しい研究成果を資料の新聞記事から要旨を、本文からは科学的アプローチの細部を読み取る。

戦争体験の記憶を抱えて生きる「佐喜子さん」と、家庭の困難の中でも成長しようとする「想」の心の交流を通して、人は孤独や苦しみに直面しても他者とのつながりによって支えられ、生きる力を取り戻していくことを読み取る。

文字としての「言葉」を超えて、声にならない「コトバ」すなわち、人間の苦しみや怒りといった個別的な感情を超えたいのちの訴え、そして他者の運命に向きあう人間の姿勢、すなわち愛のあり方を読み取る。

## 各問題講評

### 【書き取りについて】

●本年度は正答率がやや低いものがあった。

【一】問1(正答率65%)

a「傷」の形の誤答が多い。文字は細部まで正確に覚えること、bclはよく出来ていた。

【三】問1(正答率55%)

a「答」「強」「固」などの誤答が多い。b「至」「使」などの誤答が多い。

### 【文の構成】

●指示語や傍線部の前後に注意して、文脈をしっかりと理解してほしい。

【一】問1(正答率90%)

登場人物を把握し、よく出来ていた。

問6(正答率50%)

「場面」の意識を明確に持つことが必要。

【三】問3(1)(2)(3)(正答率65%)

本文を題材にした会話文の問題。(2)を誤答している者は他の正答率も良くなかった。(3)「相手」として「人」を想定することしかできていない誤答が多い。

### 【ことばの問題】

●語彙の正確な意味をしっかりと身に付けてほしい。文を読むときに普段使わない語彙も調べる習慣を心がけよう。

【一】問7(正答率80%)

空欄補充問題。自分から進んで危険や災難の中に飛び込んでいくおそろかな行動のたとえ。ことわざ・慣用表現もきちんと学習しよう。

【三】問5(正答率70%)

記号で答えず、文字で答えている誤答があった。冒頭部分の、「言葉」と「コトバ」の違いを本文中から理解する。

### 【抜き出し問題】

●具体例や言い換え表現に着目してほしい。誤字脱字のないように抜き出そう。

【一】問6(正答率65%)

「どのような生物なのか」という問いに対して答えが絞れていない。誤答に多かった「〜秩序」では、「生物」にならない。

問10(正答率90%)

非常に良く出来ていた。A本文とB資料を組み合わせて考える。「なぜ」の直後に理由が述べられている。

問11(1)(正答率50%)

感情を表す語という条件のもとに「アリの気持ち」を推測する」という部分を見つかる。

【二】問2(正答率30%)

「見えないものを見る化する」という「象徴」の理解が難しかったようである。

問8(正答率35%)

直前の部分をそのまま入れるのではない。「星座」を「家族」にたとえていることを理解する。

【三】問2(正答率80%)

よく出来ていた。誤答より、表意文字と表音文字の違い、カタカナ表記になっていることの意味、「」を付けていることの意味への理解が不十分であることがうかがえた。

問4(正答率65%)

「詩情」を理解し、字数にあわせて抜き出す。文脈をとらえれば難しい問いではないように思われたが、時間が足りなかったのか。

### 【客観問題(選択肢)】

●キーワードをつかみ、解答要素を選ぶ。

【一】問2(正答率90%)

よく出来ていた。次段落より読み取る。

問3(正答率80%)

よく出来ていた。前段落の内容から「変化」を読み取る。

問4(正答率70%)

出来ていた。空欄補充問題。A本文とB資料を組み合わせて考える。

問5(正答率95%)

非常によく出来ている。直前一文が答え。

問9(正答率95%)

よく出来ていた。空欄補充問題。直前や全段落より読み取る。

問11(2)(正答率60%)

(1)の答えとなる部分から直後を読み進めれば答えにたどり着く。

【二】問3(正答率50%)

傍線部直前の「頭の中がくらくらした」から正答を導く。

問5(正答率50%)

設問の「適当でないもの」を読み落としたりしたか。

問7(正答率75%)

出来ていた。設問の前後の文脈から登場人物の心情の細部を想定できるかを問う会話文の問題。

### 【記述問題】

●傍線部を正確に読み取り、何が問われているのかをしっかりと理解したうえで解答してほしい。また、主語と述語の関係をおさえ、必要な語を適切に選んで書くことが大切。本文をそのまま抜き出すのではなく、答えとなる文やキーワードを探し、設問に合った形で自分のことばで文にまとめなおして書こう。

【一】問8(正答率60%)

誤字や解答条件を守っていない答案が多い。解釈や行動ではなく、「菓」の中で過ごす理由は仲間と一緒にいることではないか」という筆者の仮説の根拠になっている事実を答えなければならぬ。

【二】問4(正答率30%)

「何を表しているのか」という問いの「何」に対して「家族」という方向で答えること。

問9(正答率30%)

設問は「星」について問うているので、「つながり」「きずな」ではない。また「佐喜子さん」も含むので「家族」だけではない。

【三】問3(4)(正答率70%)

「科学の進歩—いのちの意味を見失った。」の部分を使って解答を作った欲しい。チツンの具体例から一般化させて考えること。

## 次年度入試 アドバイス

出題傾向はここ数年、大きく変化していません。大学入試を見据え、長文の小説や、現代社会の課題に関わる文章を中心に問題を出しています。小学生の話し言葉には現れにくい、やや古い文章語や抽象的な概念を扱う語彙に慣れることが重要です。日頃から、小学生でも手に取れる評論(岩波ジュニア新書・ちくまプリマー新書・ブルーバックスなど)や、文学的な小説を意識して読み、表現力を身につけてください。

また本年度も、本文を題材にした会話文の問題や、複数のテキスト・資料文を組み合わせて思考する問題を出題しました。本文のキーワードを正確につかみ、それらを横断的に理解する力が求められます。筆者の主張を素早く、かつ正確に読み取る練習をしましょう。

複数の資料を扱う問題を出題したことで、読む分量が増えています。そのため、速く読み、的確に論旨を把握する力が重要です。

また、正解を導くためには、説明的な文章・物語文、随想文といったジャンルを問わず、問題本文だけでなく、設問文の読み取りも極めて重要です。そのためには、やはり語彙力の有無が大きく得点に影響します。何が問われているのかを限られた時間でとらえられるよう、時間を計りながら解く練習をしてください。傍線部付近だけを頼りに「とりあえず解答を作る」のではなく、文章全体を的確に理解し、キーワード・キーセンテンスを押さえて記述問題に取り組むことが大切です。継続して練習することで、確かな読みの力と書く力が身につけていきます。

# 社会

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 【地理分野】 日本の自然と農業	22点	気候地形など、日本の自然環境について基本的な知識を問い、それと関連が深い農業の特色についても問うた。
2 【歴史分野】 原始・古代～江戸時代	18点	原始・古代から江戸時代の文化・政治・人物に関する知識・理解を問うた。
3 【歴史分野】 明治～昭和時代	18点	明治から昭和時代の外交・政治・文化に関する知識・理解を問うた。
4 【公民分野】 時事問題など	22点	2025年の1～10月までの日本や世界で起こったニュースをとりあげ、社会的な事象に関心をもっているかを問うた。また、時事問題に関係する公民分野の基礎知識も問うた。

## 各問題講評（具体的に）

- 1 全般的に正答率が高かった。そのため、地名とその場所をきちんと把握できているかで点差がついた。それ以外に正答率が低かったのは気候についての問題である。気温と降水量についての数字が何を示しているのかを考えて、「気候の特色」に落とし込めることができた受験生は正解にたどりついたと思われる。つまり、基礎的な知識を持っているかどうかと、データをどれだけ処理できたかで点差がついた印象である。
- 2 全体的に得点率は高かった。史料の穴埋め問題もよくできていた。問4の時期判別問題の正答率がやや低かった。武家諸法度について問うた論述問題はよくできていたが、漢字間違いや、漢字で書いてほしいところがひらがなになっている解答が散見された。また、「大名が一揆をおこさないようにする」や「幕府が農民の一揆を防ぐ」などの解答が目立った。
- 3 全体的に得点率は高かった。基本的な事項については受験生の普段の努力がしっかりと出ていた。歴史上の出来事の内容や意義を問う問題や歴史の流れを問う問題では正答率が下がっていた。その出来事が歴史上どのような意味をもつのかを理解しているかが正誤を分けたと思われる。また、一般的な問い方とは異なる角度からの問では、大きく正答率が下がっていた。
- 4 平均は18点(22点満点)程度でとてもよく勉強ができていました。残念なのは、今年も漢字の間違いが多いことです。備蓄米の「蓄」、高市早苗さんの「苗」の間違いが目立ちました。また、最低賃金の問題は、正答率が50%程度でした。備蓄米の放出や最低賃金の上昇は、近年話題の物価高に関するものです。各国の首脳や日本の政治、ノーベル賞といった頻出の時事だけではなく、経済分野にも目を向けてもらいたい。

## 次年度入試 アドバイス

### 1【地理分野】

地名を暗記する場合は、地図などを使用してその場所を把握してください。教科書や地図帳に載っているグラフや表などの統計データについても、数字を暗記するのではなく、そのデータの中にあるような特徴があり、どのような事柄が読み取れるかを考えるようにしてください。

### 2【歴史分野】

教科書にでている資料(史料)に、しっかりと目を通しておいてください。また、出来事や用語に関しては、その内容だけでなく、時期区分を意識した学習を心がけてください。歴史の流れを大まかで良いので自分で説明できるようにしましょう。その際には、因果関係に着目することが重要です。理解を伴った知識とするためにも、「この出来事がどんな影響を社会に与えたのだろうか」などの視点をもちながら、普段の授業を聞いてみましょう。最後に、漢字は正確に書けるよう練習しておいてください。

### 3【公民分野】

時事問題の学習が大変だと思いますが、入試の直前にまとめるのではなく、日々気になったニュースの記事をスクラップするノートを作りましょう。その際、政治分野、経済分野、国際分野、科学分野などに整理すると、入試前の復習ノートになります。さらに、背景にあるものや影響まで関心をもってください。また、そのニュースが教科書のどの内容に関係するのかを調べることも忘れてください。

### 全般

地理的分野・歴史的分野・公民的分野を全体的にバランス良く学習してもらいたい。資料・史料の読み取りや文章を読み、内容を把握できる「読解力」も大切である。暗記するだけでなく、考える習慣を持ってほしいと思います。また、社会の出来事に広く関心をもち、出来事に対して自分の考えを持つようになることも大切です。最近の傾向として、漢字のミスが目立ってきています。学習時には、正しい漢字で書けるということも意識してください。

# 算数

## 問題内容

配点  
(120点満点中)

## 出題の意図

1. 計算問題(小問2問)	12点	四則混合の計算が正確にできるか。
2. 平面図形(角度と面積)	22点	面積が等しい三角形を見つけることができるか。
3. 文章題(ニュートン算)	18点	問題文を正確に読み取り、運用して計算できるか。
4. 文章題(場合の数)	12点	問題の条件に合う場合の数を正確に数えることができるか。
5. 文章題(速さ)	22点	問題文の条件から正しく時間や距離を計算できるか。
6. 文章題(整数)	18点	会話文から条件を読み取とれるか。
7. 立体(切断の問題)	16点	立方体の切断による面の数の変化を数える問題。

## 各問題講評

- 計算問題で良くできていました。計算ミスをなくすために、途中式を丁寧に書いて解くことが大切です。
- 平面図形の問題で全体的に良くできていました。AEとCGの交点をOとします。②は三角形ABDと三角形OBDの面積が等しくなること、③は三角形HDGを三角形HOGと三角形DGOに分けると、三角形HOGと三角形IOG、三角形DGOと三角形JGOの面積がそれぞれ等しくなるので、三角形HDGと三角形GIJの面積が等しくなることを利用します。面積が等しい三角形を見つけることが大切になります。
- ニュートン算の問題です。全体的に正答率は良くありませんでした。①はAさんが入場開始から2時間後に入場したことを考えると簡単に解ける問題でしたが、Aさん自身を入れない2400の誤答が見られました。①は人数が減る速さ、②は増える速さ、③はその両方の速さを用います。どの速さを用いるのかを整理して考えることが大切になります。
- ①は1回の試技でAの位置が6となるので、1回の試技でBの位置が0,1,2,3,4,5となる場合を数えることを読み取る問題で良くできていました。②は難易度が高かったのか正答率は低くなりました。Aが2回の試技でどの位置になるかを考えて、カードの取り出し方は無視することに注意が必要です。この2回の試技後のAの位置が0,1,2,3,4,5,7となることを確認してから、Bの2回の試技で引いたカードの色が「1回目赤、2回目赤」、「1回目赤、2回目青」、「1回目青、2回目赤」、「1回目青、2回目青」のそれぞれの場合に分けてBの位置がAの位置となるような場合を数え上げることになります。問題文の意味の把握とカードの色の取り出す順とそのカードに書かれている数から2回の試技後のBの位置を確認してAの位置と同じになる場合を数え上げることとなります。確認して調べることが多い問題でした。表などを用いてうまく数え上げる練習が必要です。
- 速さの問題です。①、②は比較的良くできていました。①は単純に距離を速さで割る問題ですが、1階から6階までの距離を $3m \times 6 = 18m$ としている誤答が多く見られました。植木算と同じで1階から6階までの間隔が5階分であることを注意しましょう。②でも同様の誤りが見られました。③、④は少し難易度が高かったのか正答率は低くなりました。2人の動きに気をつけて、丁寧にダイヤグラムを描いてから計算していくと良いでしょう。
- 整数についての問題です。①は良くできていました。②も比較的良くできていましたが、③の正答率は低くなりました。②は2025年のDの年令が7の倍数であること、最初のAの会話文から1970年のDの年令が5で割ると4余る数であることをふまえて考えます。③はいくつ

か考えられる年令の組み合わせの中から、会話文の条件すべてと合うものを考えます。72の間違ひが多く、年令の組み合わせをすべて考えられていなかったことが原因だと思われます。

- 全体的に正答率が低い問題でした。①、②は切断によってどのよう面に数が増えるかを観察する問題ですが、良く理解できていないと思われる解答が多く見られました。③は切断面を描いて1つ1つ観察しても求めることもできますが、上から見て2階建ての建物を切断するイメージで各フロアと切断面の交線を観察することで各ブロックがどのように切断されているかを判断し、面の増え方の種別を行ってから計算をすると楽に求めることができます。

## 次年度入試 アドバイス

計算力はすべての問題で必要になるので、早く正確にできるように練習しておいてください。また、全体をながめて計算の工夫が自然にできるように、普段から心掛けて取り組んでおいてください。

計算問題や小問集合、大問の①②は基礎的な問題が多いので、普段から練習して早く確実に正解できるようにしておいてください。

後半の大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができません。問題文をしっかり読んで内容を十分に理解した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイヤグラムを利用するなど、その場で解法の糸口を見い出せるように普段から思考力・試行力を養っておいてください。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、折り返したり、対称性を利用するなど様々な特徴を見つける目を養うことが大切です。

立体の問題は、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体が考えられるようにしたいものですが、複雑な場合は断面図や展開図を描いて視覚化する練習もしておいてください。

本校の過去の問題を見ればわかるように、難問・奇問(特に、小学校の学習指導要領の内容を超える分野)ばかりを練習する必要はありません。標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解く姿勢が大切です。

# 理科

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 (地学分野) いろいろな砂や石と地球の運動	20点	大阪・関西万博で展示された砂や石をテーマに、その由来や地球の運動について思考する力を試した。
2 (化学分野) カルシウムを含む物質	20点	カルシウムを含む物質の性質や反応を通して、化学変化に関係する物質の量的な関係などについて理解し、思考する力を試した。
3 (生物分野) 昆虫と進化	20点	(昨年、小学生が昆虫に触れ合う機会が減っていることを受け、)前半は昆虫に関する知識を、後半は進化に関してリード文にしたがって計算し結果を考察する力を試した。
4 (物理分野) エレベーターにはたらく力	20点	滑車に関する基本的な知識とその知識を活用する力、またなじみがないと思われる事柄についての説明を読解し、しくみを理解する力を試した。

## 各問題講評

1. 大阪・関西万博で話題になった展示物を題材に、基本的な知識と考察力を問うた。知識で解ける問題はよく出来ていたが、(4)のように「マグマの粘り気と温度の関係」という条件を踏まえて考えさせたり、(6)の(i)のような正誤問題にすると、正答率が想定以上に低下した。(5)では、意味の通らない表現になっている誤答が目立った。(6)の(ii)は難易度の高い問題として出題したが、与えられた文章や図を読み解く力によって得点に大きな差がついた。
2. (2)の(ii)では、炭酸カルシウムと塩酸の反応の量関係の整理が不十分で、過不足なく反応する点(変曲点)を正しく描けない解答が想定以上に多かった。そのため、C点以降で測定値の点を結んで曲線的に減少していくような誤ったグラフが目立った。また、(iii)では「C点で塩酸がすべて反応し、さらに炭酸カルシウムを加えても二酸化炭素が発生しない」と判断した誤答が多かった。(3)は、必要な情報を正しく読み取ることができ、よくできていた。(4)は生石灰の質量と発生する熱量の関係を整理し、与えられた条件から比例関係を構成して必要量を推定する力を試す問いで、3割程の正答率であった。
3. (1)～(4)での取りこぼしが予想以上に多かった。教科書にある知識問題や一般的な問題での失点は避けたい。(6)は未解答が多く、飛ばした受験生が多かったと考えられる。⑥は、2の9乗(512)を513で割って求めるが、 $1/513 \approx 0.2\%$ とわかれば、99.8%は容易に求められる。⑦は具体的な数値で考えると解きやすい。Bタイプは4匹中25%が感染・死亡して3匹生き残り、Aタイプが同数生き残るとすると、8匹中5匹が感染・死亡するとわかる。あとはAタイプの感染率(5/8)をBタイプの感染率(1/4)で割ればよい。
4. 【会話文Ⅰ】  
知識を活用する力を問うたが、典型的な動滑車とは上下が逆であったため難しかったようだ。典型的な定滑車として扱える(1)、(3)は比較的よくできていた。(5)は、滑車B・C・Dを定滑車、かごを動滑車と解釈できれば、一般的な滑車の考え方で計算できる。移動距離に関する(2)、(4)の正答率は想定よ

り低く、動滑車の移動距離について、暗記ではなく理解ができていれば解けたと考えられる。

### 【会話文Ⅱ】

なじみのない事柄について、説明文を読み取る力を問う問題である。重いものを持ち上げる工夫と、その効果の大きさを理解する内容で難易度は高くないが、時間不足で解ききれなかった受験生が多かったと推測される。

## 次年度入試 アドバイス

例年、実験・観察に関する内容や、身の回りの科学現象について考える内容を出題している。また、図や表の読み取り、グラフ描画、記述問題も必ず出題しており、これらの問題で差がつきやすいため、過去問にしっかり取り組んでほしい。知識問題は教科書レベルの基本的なものだが、知識を活用する力を試す出題が中心になるので、情報を整理し、論理的に考える力を身につけてほしい。

今年度は、すべての大問でリード文を会話文としたため、読解に時間がかかると想定し、問題数や難易度の調整を行った。しかし想定以上に時間不足となった受験生が多かったと推測される。読むスピードを上げ、全問題に取り組めるよう準備して試験に臨んでほしい。

- 科学現象や実験・観察について、暗記に頼らず、しくみを理解する。
- 文章を速く正確に読み取る力をつける。
- 設問で何を求められているかを正確につかみ、指示を読み飛ばさない。
- グラフや図、表の読み取りや描画を練習する。
- 基本的な計算力を身につけ、定番の計算は根拠を確認しながら演習する。
- 用語は漢字で正確に書き、文章は内容が伝わるように意識して書く。普段から、意味の通る正しい文で説明する習慣をつける。